

# 令和5年度 長崎総合科学大学附属高等学校 運動部活動に係る活動方針

## スポーツ医・科学的見地から

・ジュニア期におけるスポーツ活動時間について、「休養日を少なくとも1週間に1～2日設けること」さらに「週当たりの活動時間の上限は16時間未満とすること」が望ましい。(公益財団法人 日本スポーツ協会)

## スポーツ庁・文化庁

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン (R4.12.27)

## 学校法人 長崎総合科学大学

学校法人長崎総合科学大学 運動部活動の在り方に関するガイドライン

- ・「生徒のバランスのとれた生活と成長の確保」「スポーツ障害の予防」のほか、スポーツ医・科学的な必要性や生徒の発育・発達過程で最高のパフォーマンスの発揮や本人の意欲の向上のためにも、競技や種目の特性を踏まえつつ、運動部活動において適切な休養日及び活動時間を設定すること。
- ・生徒がスポーツを楽しむことで運動習慣の確立等を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。
- ・生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこと。
- ・学校全体として運動部活動の指導・運営に係る体制を構築すること。



### 運動部活動に係る学校の実情等

#### 【生徒や保護者、地域の実情】

全校生徒の約62%が運動部に在籍し、且つサッカー部、野球部、バレーボール部の寮生が、全校生徒の約42%を占めており(バレーボール部は民間の宿泊施設利用)、積極的に運動部の活動が行われている。

また、保護者の多くも、各運動部の活動の充実及び、各種大会等での活躍を期待している。

多くの寮生を抱えていることから、寮における生活の見守りと指導・対応が重要である。また、各種感染症の感染拡大防止に留意し、迅速・的確な対応が求められる。

#### 【施設等の使用状況】

総合グラウンドとサブグラウンドをサッカー部と野球部で共用。

体育館は、バレーボール部とバスケットボール部で共用。

柔道部は格技場を使用。

#### 【強化指定等】

令和5年度は、運動部活動では、サッカー部、野球部、バレーボール部の3競技を強化指定競技としている。

### 本校の活動方針

#### 【部活動のねらい】

スポーツを愛する同好の生徒が参加し、各部顧問等の指導の下、体力や技能の向上を図るとともに、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図る。また、「勝利至上主義」に陥ることなく、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場、人間形成の場とする。

#### 【休養日及び活動時間】

- ・1日の活動時間を、学期中は原則として平日3時間程度、休業日4時間程度とする。
- ・週当たり1日以上以上の休養日を設ける。その際、月に1回以上は週末を休養日とすることを原則とし、家庭の日(第3日曜日)を配慮する。
- ・大会参加等、活動時間が長くなる場合は、翌週に休養日を設けることを原則とする。
- ・定期考査1週間前及び定期考査中の部活動は原則中止とする。ただし、大会が迫っている場合は、校長の承認を受け、職員に周知して短時間の練習を許可する。
- ・長期休業中は、学期中に準じた扱いを行うとともに、長期休養期間を設ける。

#### 【活動計画立案(大会参加の目安を含む)及び提出と周知】

- ・各部顧問は、活動時間、休養日、大会参加等の年間計画を作成し、管理職に提出するとともに、部員・保護者に周知し、計画的な部活動運営を行う。
- ・校長は、各部の活動内容を把握して、適宜、指導・是正を行い、活動計画の適切な運用を徹底する。

#### 【研修参加及び情報の共有、保護者や外部指導者との連携】

- ・各部顧問や外部指導者に対して、本校部活動指導方針の徹底を図るとともに、適切な部活動指導のために、定期的に研修の機会を設ける。
- ・各部活動ごとに保護者会を定期的で開催し、保護者との連携を密にする。また、保護者の経済的な負担を抑えるよう努めるとともに、部費を徴収している部においては、会計処理を透明化し、年度末に保護者及び管理職に決算報告を行う。

#### 【指導について】

##### 1 体罰等の禁止

部活動の指導者は、科学的な根拠に基づいた指導を行うとともに、生徒の人権を尊重し、いかなる理由があっても体罰等の不適切な指導を行ってはならない。また、部内での「いじめ」等の根絶を図る。

##### 2 事故防止等について

部活動指導者は、施設や用具の点検、健康観察を行い、事故防止に万全を期す。特に熱中症に関しては、熱中症計を活用して状況を把握し、躊躇せず活動内容変更、活動時間の短縮や時間帯変更、活動を中止するなど万全の対策を行う。

#### 【生徒のニーズを踏まえた部活動設置の検討】

- ・令和5年度から、釣り、キャンプ、BBQなどを楽しむ、新しいタイプの部活動として、「アウトドア部」を設置した。

